

令和3年度第1回南区地域包括ケアシステム推進会議 議事録

1 日時 令和3年(2021年)10月5日(火) 14時から

2 場所 南区役所 3階 大会議室

3 出席委員(敬称略)

林 茂、宮本 格尚、濱崎 ももよ、上田 浩之、吉村 譲二、神原 ひろ子、高山 いくこ、森 武
範(堀田 晃代理)、中熊 フサヨ、上野 幸人、森 拓二、河元 多鶴子、宮澤 矢良、宮部 寿一、
重元 弥生、堤 信康(野口 輝子代理)、村田 美妃(田中 知英代理)、西堀 拓也、西岡 裕二、
梅田 孝子

※オブザーバー 緒方 洋、太田 秀聡

4 議事

(1) 南区地域包括ケアシステム推進の経過報告

(2) 南区における今年度の取組報告

(3) 協議

(4) その他

5 議事録等(要旨)

○事務局

会議資料の説明。

○熊本市社協社会福祉協議会南区事務所長 上田委員

社協も地域包括ケアシステムを推奨していく立場の者ですが、特に南区に限って申し上げますと、2、5層の実務者レベルの様々な取り組みをされているところにはすごく興味がある。その中で人生会議や身寄りのない方への対応等はこれから増えていくのではないかと思う。一緒に力を合わせていければと思う。

○熊本市8020健康づくりの会南支部 神原委員

メッセージノートを家に持っているが書いてはいない。必要かと思うが今日の復習でお話を聞いて、帰ったら書こうと、うちの夫にも書かせようと思った。ぼってん劇団さんの寸劇は2度ほど見せていただいたことがある。すごく楽しい熊本弁丸出しでとても良かった。是非一度ご覧になると、自分の人生の最終を迎えるにあたってすごく参考になるかなと思う。

○熊本市食生活改善推進員協議会南支部 高山委員

40年前に母を介護した経験があり、自宅で亡くなったがその時はまだ何もなくて、自分達家族で全部介護したが、今は制度が充実していると感じる。昔同じようなサービスがあれば、母も家族もよかったなあと思っている。食改としては、シニアカフェをしている。地域のお年寄りの方と一緒にゲームをしたり、今はコロナ禍で食事は出来ないが、ちょっとしたおやつ提供で楽しくやっているところ。

○熊本南警察署生活安全課 森委員(堀田委員代理)

警察署では高齢者の行方不明通報があり対応している。GPS付のものを身に付けている方がいる。福祉

課で貸し出しなど行っているか？

○事務局

GPS 等の貸し出しはないが、介護保険制度の中で条件に見合われたと判断された方には、GPS 付のものを身に着けるレンタル品がある。また、高齢福祉課から条件に見合った方には、シールのようなものを服に縫い付け、保護された際に携帯電話のアプリで読み込むと居場所が判明したり、保護した方が直接ご家族に連絡が取れるシステムを今年度から取り入れているところ。

○校区自治協議会（富合圏域） 中熊委員

サロンを富合で最初に開始した。その当時の民生委員と健康なまちづくり活動として開始し、自治会、老人会が協力してくれた。このコロナ時代でも、続けており、感染予防対策を徹底し実施している。以前組織化されていた福祉委員制度がなくなったが、古閑地区では、コロナ禍でも実施した。30 名程度参加あり。少人数でもできる体制を考え頑張りたい。

○校区自治協議会（幸田圏域）上野委員

オレンジカフェ実施の経験がある。いろいろな活動があるが実施するのは大変なことだと感た。これも地域の自治会、老人会、民生委員などいろいろな団体と協力しながら、地域の人といかに一緒にやっていくことが出来るかということを考えないと、自分たちだけ、限られた人のみではなかなかできない取組だなと感じ、今後は地域でやれるように頑張っていきたい。

○林会長

本当に今言われたように、いかに地域の人達を巻き込んでというのが今からは大事だと思う。これからも検討していきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

○校区自治協議会（南部圏域）森委員

私自身まだまだ若輩の立場。会議に参加する中で勉強させていただき、少しでも地域に持って帰れば良いと思っている。ばってん劇団さんは例えばサロンや敬老の集いとかにスペシャルゲストで来ていただきたいなと思うがいかがか？

○地域包括支援センター（飽田）西堀委員

南区では、ばってん劇団として今回イベントにむけて劇団を立ち上げた。素人劇団のため、イベントの時には何とか見れるような劇を開催できればと思っている。地域の方に出ていく機会があれば、劇団員に相談したのち、劇団を立ち上げてご要望に応えられるように今後も精進していきたい。その時はオファーをよろしくお願ひしたい。

○校区自治協議会（飽田圏域）河元委員

色々説明していただいたが、たくさんあると思った。私事だが、主人の介護をしている。介護の問題もつくづく大変だなと思った。本人もまだ年齢的に若いこともあり、介護申請をしたくないという気持ちが強

かった。先延ばしにするうちに対応が出来なくなり介護申請したところ、本人の体がもう駄目になってしまっていた。結局いつ申請した方が良かったのか？早くした方がいいのか？など、勝手に分からない点があった。身近なところに家族のことで、多くの方に支えられ、助けられて、こんないい支援があればもっと介護する側も少しは楽になると思う。関係者の方にはその節は大変お世話になった。良い支援があるということを知ってもらうために、行政には積極的な情報提供をお願いしたい。少しでもこんないい活動、介護とかいろんな面で続けられたらいいなと思う。今日初めての参加で何も分からないが、これからも頑張っていきたいと思う。よろしくお願いします。

○校区自治協議会（天明圏域）宮澤委員

主任児童委員をしている。民生委員の方と一緒に活動している。今説明を聞いた中で、やはりこの住み慣れた土地で人生の最期を幸せな思いで迎えることはとっても大事なことだと思った。私自身も父を亡くし、事務局の方の説明にあったように、人生会議というか、最後の看取りにあたり、延命治療を行うかに関して本人がどういう意思を持っているかを家族がどう理解しているかが大事だということ、父を亡くした時に痛感しました。とても大切なことだと。前もって話し合っておくことがいかに大事なことが、とても強く感じた。ただ、私もその経験があったからこそ感じたことで、先ほどの熊本銀行のアンケートの結果で若い方々が多いのでご存じないのかな、メッセージノートも知らないのは年が若いので、考えないと思う。でも経験するとそれがとても大事なことだと感じたので、とてもいい取り組みをされていると感じ、これを市全体としていかに周知していくかということが大事だなと思った。

○校区自治協議会（城南圏域）宮部委員

地域包括システムという言葉を見ただけで良く分からず、聞いてもまだうまく分からないような感じ。また医療と介護の連携とは何だろうか？と思っている。民生委員活動をやってる中で、感じることをお伝えしたい。一人暮らしの方を毎月訪問すると、認知症の症状が少しずつ悪化していく経過がわかる。施設入所された方が何人かおられるが、骨折される方が非常に多い。椅子やベッドから落ちて骨折という方がいる。信じられないけどおられる。そういうのを見ていると、将来の自分を見ているような感じがする。認知症で骨折して入院となって今後どうなるのかなと思う。車に乗れなくなった方は、買い物はどうするのかと思う。生活困窮者の方の対応、生活保護に該当しない方（働く意欲がない方）どうなるんだろうと。何とかならないかと感じながら活動しているところ。

○林会長

地域にはいろんな問題があると思うし民生委員さんとかそれぞれみんな感じることもあると思う。私が答えて良いかとも思うが、今 4 つの方針ということで地域包括システムを南区で進めており、推進方針に載っているように、元気で過ごせるまちづくりが 1 番目で、2 番目が医療介護になり、今年度は医療介護を充実して取り組んでいる。先ほどの認知症のことや移動手段のことは 4 番目のところに載っている。暮らしのこととして、医療介護の分野がある程度充実したら、認知症、暮らし（移動手段）のことという感じで、推進会議の中で焦点を絞って進めていけたら良い。今年度は人生会議、介護の分野において、「最後はどこで誰に看取られてどんな死に方をしたいかを家族で話し合わないといけませんよ」ということを、まず伝えたい。本日お集りの委員の中でも医療介護関係者の方はよく知っているが、一般の方はほとんど知らない。

その一般の人たちにどう伝えていくかをみんなで話しながら、自分達のまちは自分達で作っていかなくやいけない。国がしてくれる訳ではない。そういう意味で、みんなで力を合わせてやっていきたいなということで、今回のような会議をしながらこれからの南区のまちづくりを進めていきたいと思う。今年度は先ほど事務局から説明があった取り組みをしたいと思っている。まちづくりセンターからひと言ずついただけたらと思う。

○まちづくりセンター（富合）

当センターではまだコロナでなかなかまちづくりの活動が出来ていないが、サロンを見学に行くと高齢者の方が一生懸命体操されていて、その姿がものすごく生き生きとしていて、やはりみんなとコミュニケーション取りながら、それを生活の糧にしていくのが本当に大事なんだなと実感したところ。それによってまちづくりも成功していくんだなと感じた。中熊会長が取り組んでいる健康なまちづくりを支援していきながら高齢者の方々の元気で生き生きした姿がもっとたくさん見れるようにしていきたいと考えている。

○まちづくりセンター（飽田）

ささえりあと同じ建屋内にいるため、元気クラブの補助金や健康夏祭りを民生委員さん、食改さん、8020推進員さんなど関係者の方々と共同して取り組んできたところ。ここ1, 2年コロナの影響で滞っているがまた改めていろんな活動が出来ればと思っている。

○まちづくりセンター（城南）

コロナ禍でなかなか活動が出来なかったが、新しい庁舎ができ、ささえりあや障がい者支援センター、老人福祉センターなど関係機関が同じ庁舎に入った。連携ができればと思う。現在、小学生や地域の方々が参加の、認知症サポーター養成講座を計画中。まちづくりセンターとしていろんな行事の中で紐づけしていく支援が出来れば良いと思っている。

○まちづくりセンター（南部）

同じ建物にささえりあも入っているため、何かと相談しやすい環境にある。ささえりあ主催の地域運営協議会にも参加させていただいている。資料を見ると高齢者が抱える課題が、介護、認知症や金銭関係などいろいろな問題を抱えておられることが分かる。個々の高齢者の方と接することは、まちセンとしてはないが、自治協だったり民生委員の方々を通じてささえりあさんと一緒に高齢者支援が少しずつでも出来ていけばと考えているところ。

○まちづくりセンター（幸田）

ささえりあ幸田と連携して今年度7月末に、地域の方を対象にした認知症サポーター養成講座を実施した。その中で、ささえりあ幸田の方が寸劇を行い楽しい講座となったことを報告させていただく。個人的に、家族の介護しているが、このようなシステムを前もって知っていれば、もっといろんなところに相談し、家族が過ごしやすい日々を送ることが出来ると思う。実際は介護に関してどこに相談していいのか分からないまま日々介護を行っている。ぜひともこのようなシステムを広く市民に知っていただけるような取組を広げていきたいと思う。今後もささえりあと協力して健康づくりに関する取組を進めていきたいと思う。

○まちづくりセンター（天明）

天明地域においては、高齢化率がかなり高いため、ささえりあの方や住民の方と協働で、100歳体操の取組のサポートをしている。議題に挙がった11月28日の催しは、看取りのあとの関わりが公民館やそのあとで財産関係も関わってくる。今度講座内容も考えて一緒にやっていければと考えているところ。

○熊本市民生委員児童委員協議会 吉村委員

結局、健康を考えた時に、身体的なものと精神的なものがあると思うが、やはり心の部分が大きな支えになっているんじゃないかなと思う。私は天明の文化協会の世話もさせてもらっているが、10月3日に文化祭を開いた。やりたいという希望が非常に大きく、なるべく規模を小さくして、来賓を呼ばず、広告も出さず実施したが、結果的に非常に感謝というか、出演者が80名、応援者がかなり高齢者の方が多かった。特にカラオケは高齢者が杖をつきながら歌われる。非常に手前味噌ですが盛りあがった。やってよかったなというのが正直な気持ちだった。野本センター長に随分お世話になった。やはり楽しみという部分がありそれに向かって歌の練習をすとか稽古をすという、張り合いになるものを作ってあげるとはとても大事と思っている。他にもグランドゴルフなど趣味を持っている方の環境づくりを少しずつ積み上げていくというお世話もしなければと思っているところ。

○熊本市歯科医師会 宮本委員

日本人は宗教観が薄いので、死をなかなか口に出さない。私にも80を過ぎた両親がいるがメッセージノートも何年前にもらっているものの、親に書けとなかなか言えないところがある。そういうところから見直していかなければと思う。一つは行政の方のコミーシャルを通じて世間の意識を変えていくことが大事と思う。私はささえりあの方が実施している第3層の会議にも毎回出ているが、元気な方はいいが、3層会議に出てくるケースは、考えさせられるような家庭環境や老々介護あるいは8050家庭や障がい者家庭などの問題が出て、今まで日本が経験したことがないような内容が出てくる。その都度考えていけないと感じている。少し前にロシア人と話したことがあるが、8020運動のことを伝えると、鼻で笑われた。ロシア人の平均寿命は57歳だった。そういう国の人に、80歳まで20本という話をしても仕方がないと笑い話になるが、日本は世界最長の長寿国になっているが最後まで元気だといいが、こればかりは、自分の意志でできることではない。せつかくこういう良いノートを作っているのでしっかり宣伝して、元気なうちからフランクに話せるような環境づくりを、我々も含めて日本はやっていかないといけない、いつも感じるところ。まだ自分でもやれていないため、今晚親に書かせてみようかと思っている。

○林会長

区長さんからもコメントをお願いします。

○南区長

高齢者のことについては、日本の課題でもありますが、特に南区は、高齢者の単身世帯、夫婦だけの世帯が多く、先ほど出たように車に乗れなくなると買い物にも行けなくなるという話になり、南区としても何かするべきではないかと考えていた。特に私自身も家族を10年以上前に亡くしまして、その時は施設に入っており私も当時はあまり介護できていなかった。施設の方から、調子が悪いので病院に救急車を呼んで連れ

て行かないといけないといわれたが、多忙のため「連れて行っていただけませんか」と言ったら、施設はから断われ、初めて実情を知った。そこでまず、介護と医療の連携というのが重要なんだというのがよくわかった。家族は病院に行き、がんと分かり手術をしたんですが、意識が戻らないまま、2か月間チューブに繋がれたまま亡くなった。私自身は手術すべきじゃないんじゃないかなと思っていたが、本人がしたいと言うため、手術して結果として良くなかったという経験がある。できるだけ自分の住み慣れた地域や家庭で死を迎えるというのは、アンケート結果からも、熊本に限らず全国的に、家庭で最後をとという希望がある。ただ一方でなかなか家庭でと希望しても、最終的には病院でしか死ねないという状況がある。2025年に後期高齢者が増加し、2040年に日本は高齢者数が一番ピークを迎える時となる。2040年頃になると、果たして今のように病院で死ぬことが出来るのかという疑問もある。国は医療費の抑制を言っている。そういった考えもあり、地域包括ケアシステムが進められてると思うが、決して他人事ではなく自分の事としてとらえて、元氣なうちから考えていくということが非常に大事なんじゃないかなと思う。

○林会長

やはりみんな体験してみないと分からないいうところが多くあると思う。熊本銀行で私が話した両親の看取りで悩んだことについて、若い職員の方がアンケート結果にあるように、こんなにわかってもらえたのかと感じた。私達医療関係者がどんどん地域の一般の人たちに向けて発信していかなければと思うし、私達だけではできないので、自治協議会とか、まちづくりセンターさんとか行政と一緒に取り組むべきことだろうと思う。区長が言われたように、2040年には病院で死ねなくなると思うのでそこを国に任せていてもいけないので自分達でどうにかしていかなばならないと思う。少しでもできることから、一般の人達向けに取り組を進めていきたいと思う。

○校区自治協議会（富合圏域）中熊委員

サロンは、2, 3人でもできると思う。認知症の方が折り紙の折り方を覚えていて、月に3回実施している。近所の方だけでも集まってできるので、出来ることからするといいと思う。少人数でできる方法を行政と一緒に考えたい。

○林会長

いろいろなご意見ありがたい。今年度の取り組みに関しては、事務局から報告があったような形で進めさせていただいてよろしいでしょうか？

○拍手（賛同あり）

○事務局

以上を持ちまして、第1回南区地域包括ケアシステム推進会議を終わりたいと思う。次回の2層会議の日程は、令和4年1月を予定。具体的な日程は、また事務局から連絡します。ご協力の程よろしくお願い致します。これを持ちまして本日の推進会議を終了します。